

価格.com

2010年8月4日
株式会社カカコム

第43回価格.comリサーチ『家庭内インターネット環境調査』結果

**家庭内でのインターネット環境、約6割が光ファイバー回線
半数近くが無線LANを利用
ノートPCをはじめゲーム機も、多くインターネットに接続**

株式会社カカコムが運営する購買支援サイト「価格.com (<http://kakaku.com/>)」が実施したユーザーへの意識調査「価格.comリサーチ」より、第43回調査『家庭内インターネット環境調査』から、結果を一部抜粋の上、ご案内します。

今回は、価格.comを利用している一般ユーザーが、家庭内においてインターネットをどのような環境で利用しているのかを調査しました。

調査結果詳細：<http://kakaku.com/research/report/043/>

【調査パネル】

調査エリア：全国 調査対象：価格.comID登録ユーザー

調査方法：価格.comサイトでのWebアンケート調査 回答者数：9,465人

男女比率：男88.3%：女11.7%

調査期間：2010年7月13日～2010年7月20日 調査実施機関：株式会社カカコム

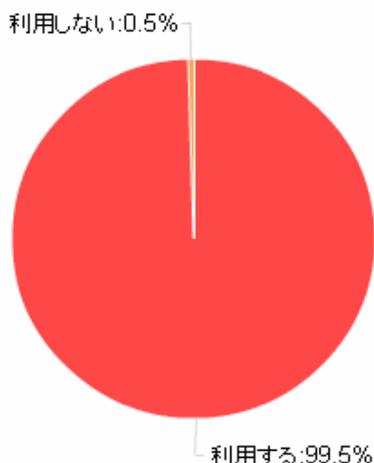
※四捨五入による端数処理のため、合計が100%にならないことがあります。

家庭でのインターネット利用率：99.5%

家庭内でインターネットを利用しているかどうかという質問に対しては、ほぼ全員に近い99.5%が「利用する」と回答した。家庭内にインターネット環境を持っておらず、職場や学校などでのみインターネットを使うという人はかなりの少数派であるということがわかる。

今回の調査対象となるユーザーもほぼ100%に近く家庭内でインターネットを利用しているということだ。

【図1. 家庭内のインターネット利用状況】

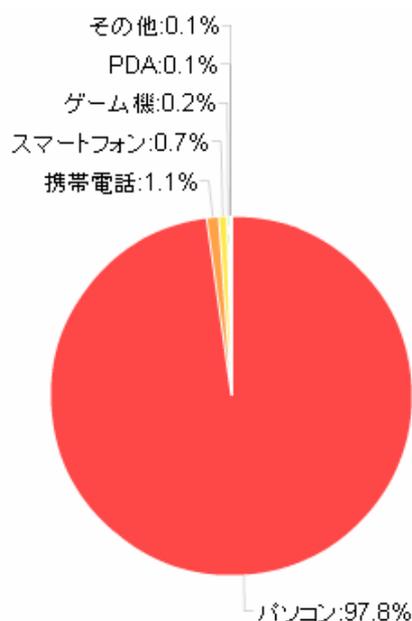


家庭でインターネット利用時に使用する機器：97.8%が「パソコン」を使用、年齢層が下がるにつれ、携帯電話やスマートフォンの割合が増加傾向に

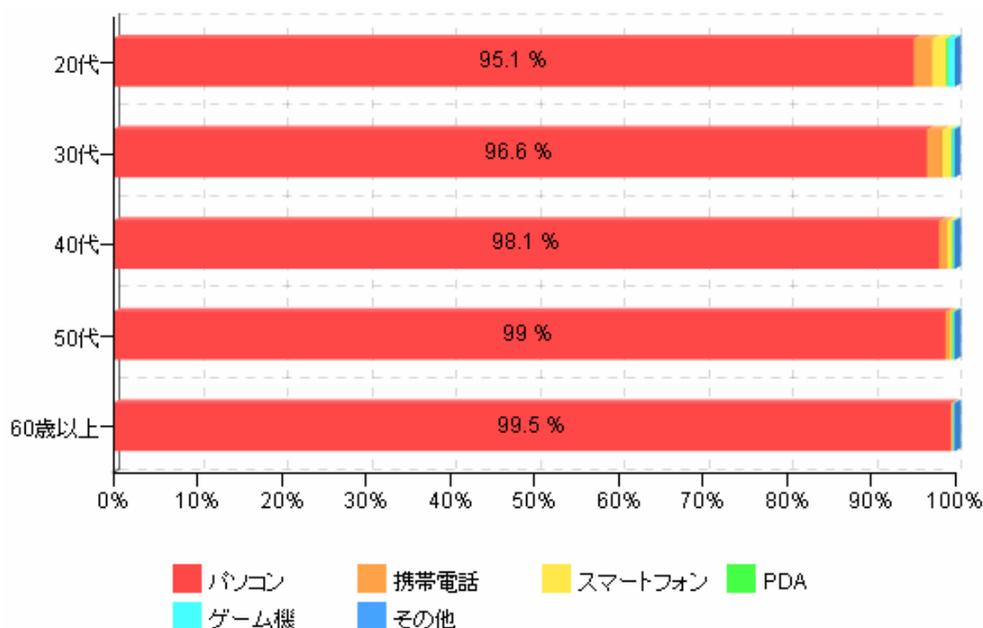
家庭内でインターネットを利用する際に、もっともよく使う機器は「パソコン」が圧倒的に多く、97.8%という高い数値となった(図2)。少なくとも価格.comを家庭から利用しているほとんどのユーザーは、主にパソコンからのアクセスが多いということである。なお、一般的にインターネットアクセスの機器としてもよく使われている「携帯電話」はわずか1.1%、最近流行の「スマートフォン」は0.7%という結果になっており、外出先ではともかく、家庭においてはやはりパソコンが、主たる通信手段であることが裏付けられた。

また、回答者の年代別で見ると(図3)、どの年代でもパソコンが圧倒的に多いのは変わらないが、年齢が下がるにつれて、パソコン以外の携帯電話やスマートフォンの割合が増えているのがわかる。20代にいたっては、携帯電話とスマートフォンをメインの通信手段としている人が3.9%おり、自宅でも携帯端末などでインターネットにアクセスする割合が若干ではあるが高めに出ている。

【図2. 家庭内でインターネットを利用する際、もっとも使用する機器】



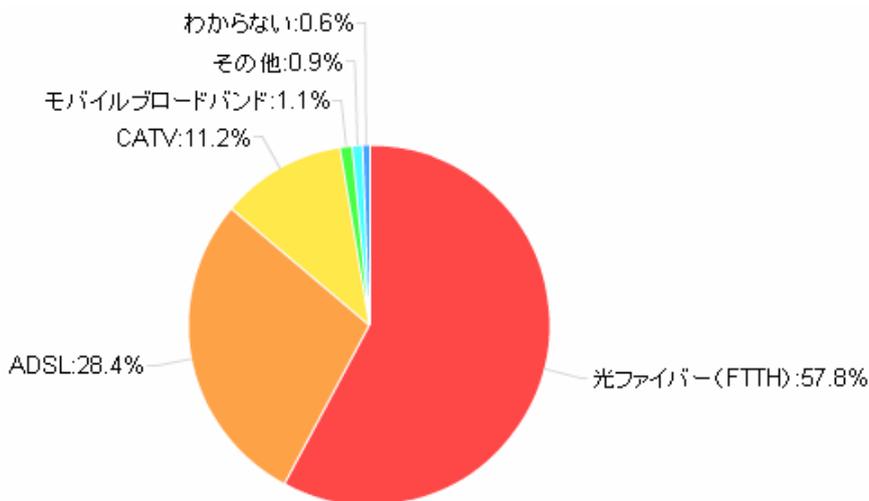
【図3. 年代別集計結果】



家庭で使っているインターネット回線:1位「光ファイバー」(57.8%) ブロードバンド回線は全体の97.4%を占める

家庭でお使いのインターネット回線の種別について、もっとも多かったのは「光ファイバー (FTTH)」で、半数を上回る57.8%が利用しているという結果になった。次点が「ADSL」で28.4%。さらに「CATV」が11.2%となっており、この3回線（俗に言うブロードバンド回線）で全体の97.4%を占めた。この割合については、総務省が発表している「ブロードバンドサービスの契約数【平成21年12月末現在】」(http://www.soumu.go.jp/main_content/000060293.pdf)の割合とおおむね合致しており、もはやブロードバンドの主流は光ファイバーに完全に移っていることがわかる。なお、最近普及が進んできている「モバイルブロードバンド回線」については、1.1%という状況だった。

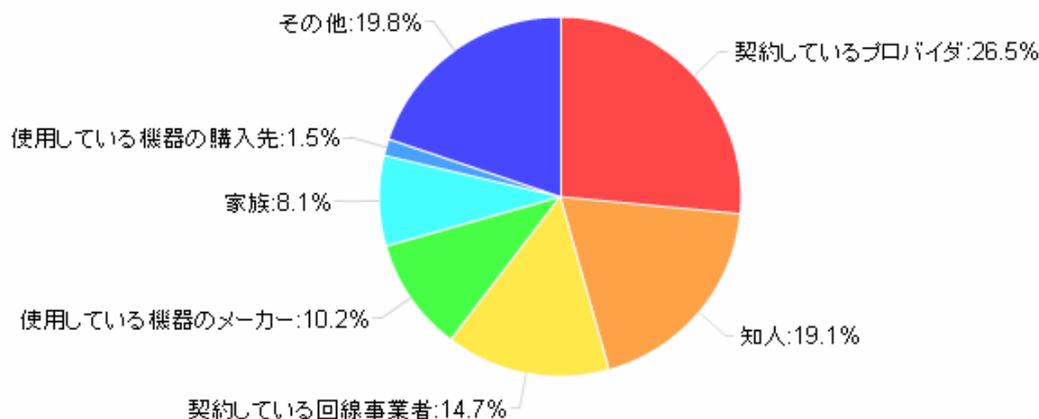
【図4. 家庭のインターネットの接続回線】



困った時の相談先:1位「契約プロバイダ」(26.5%)、次いで「知人」(19.1%)

インターネットに関して、何か困ったことが起こったときの相談先としてもっとも多かった回答は「契約プロバイダ」で26.5%となった。何か問題があった場合は、プロバイダのサポートセンターなどに問い合わせるケースがもっとも多いようだ。次に多かったのは「知人」で19.1%。パソコンに詳しい知人などにまずは相談し、アドバイスをもらうというパターンも比較的多い。

【図5. インターネットに関して、困ったことがあった場合の相談先】



以下、NTTなどの「契約回線業者」(14.7%)、「メーカー」(10.2%)、「家族」(8.1%)と続く。
なお、この結果を回答者の年代別に見たグラフでは、年齢層が下がるにつれて、知人などに相談する割合が増え、逆に年齢層が上がるにつれて、プロバイダや回線業者のサポートセンターに相談する割合が増えていることがわかる。また、パソコンなどの接続機器のメーカーに問い合わせるといった割合も、年齢層が高くなるほど増える傾向にある。この背景としては、一般的に、若年層ほどインターネットやIT機器に関して詳しい傾向にあるため、周囲にパソコンやインターネットについて相談できる人が多く、逆に高年齢層になると少なくなる、といった状況が大きく影響しているものと思われる。

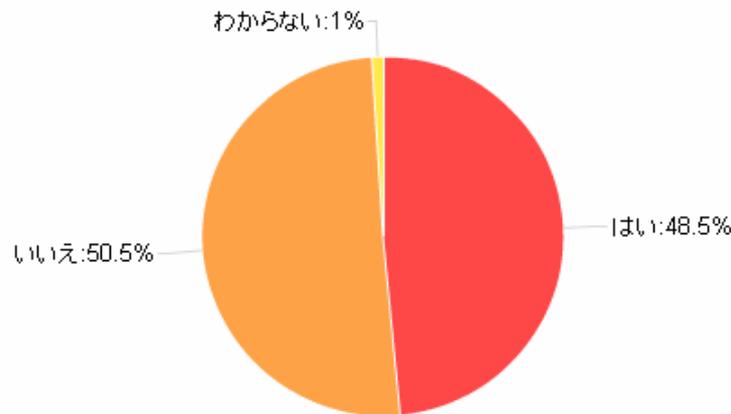
※年代別集計結果は下記URLにてご確認ください

<http://kakaku.com/research/report/043/p03.html#mds05>

無線 LAN 利用状況:48.5%が利用、ノート PC 普及により家庭内でも無線 LAN が浸透

家庭でお使いのインターネット環境が無線 LAN に対応しているかどうかについて聞いたところ、約半数の 48.5%が、無線 LAN を利用していた。ノート PC の普及によって無線 LAN 接続が一般的となった結果、家庭内においても無線 LAN がずいぶん浸透してきている印象だ。

【図 6. 家庭のインターネットの接続形態は無線 LAN によるものか】



無線 LAN セキュリティ対策:82.8%が「対策している」 対策していない理由のトップは「必要性を感じないから」(39.0%)

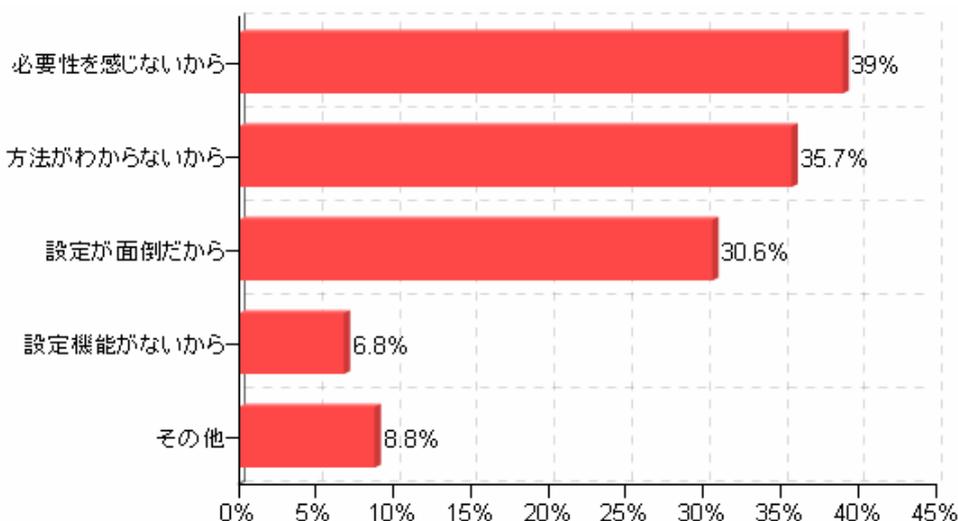
無線 LAN 利用者に、セキュリティ対策を行っているかを聞いたところ、大多数となる 82.8%が「対策している」と回答した。「対策していない」という回答も 11.6%、また「わからない」という回答も 5.6%あった。

「対策していない」と回答した理由としては、「必要性を感じないから」(39.0%)、「方法がわからないから」(35.7%)という意見がもっとも多く、次いで「設定が面倒だから」(30.6%)という意見が続く。無線 LAN の暗号化に関する設定方法の難しさや面倒臭さが、セキュリティ設定を行わない大きな理由となっていることがわかる。

【図 7. 利用している無線 LAN のセキュリティ対策を行っているか】



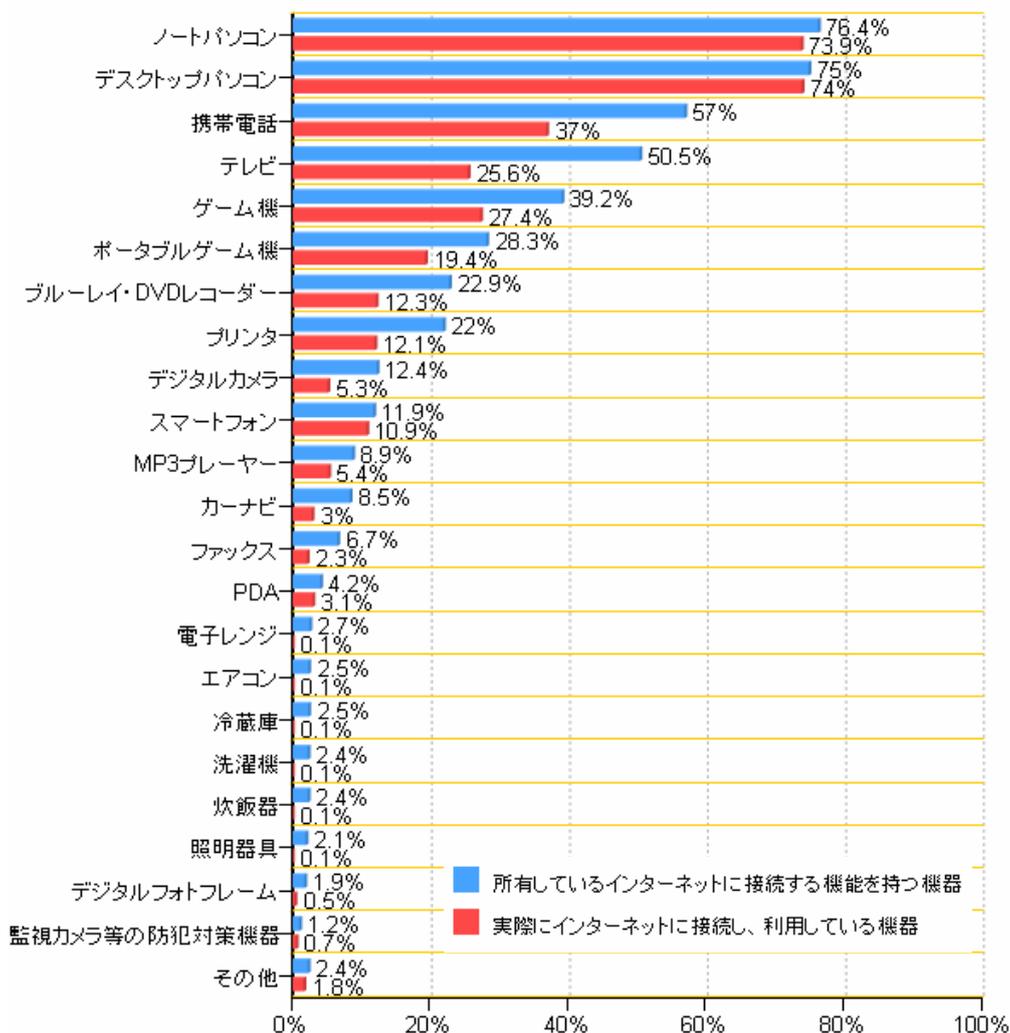
【図 8. セキュリティ対策を行わない理由】



家庭内でインターネット接続している機器： ゲーム機のネット接続率は約7割、家電は半数にとどまる

家庭内にどれくらいの数のインターネットに接続できる機器があるのか、また実際にどれくらい接続しているのかを、機器別に聞いた。

【図 9. 家庭内にあるインターネットに接続する機能を持つ機器（実際に接続している機器別）】



インターネットに接続できる機器の筆頭は当然ながら「パソコン」で、ノート、デスクトップともに75%を超える高い普及率となっている。パソコンに関しては、所有率とインターネットの接続率はほぼイコールであり、家庭内のパソコンはほぼすべてインターネットに接続しているようだ。

次に多いのは「携帯電話」で57.0%の所有率となった。ただし、インターネットに接続できるものの、実際に接続して利用している割合は37.0%で、家庭内においては携帯電話でインターネットを利用する割合は意外に低いことがわかる。なお、家電製品の「テレビ」も所有率は50.5%とかなり高いが、実際のインターネットへの接続状況は25.6%で、こちらもネットワークにつなげられる機能はあるものの、つなげていないというユーザーが半数にのぼることがわかった。同じ家電製品の「ブルーレイ・DVDレコーダー」もほぼ同様の傾向にあり、半数程度がネットワーク機能を利用していない。

家電製品の接続率の低さに対して、意外にインターネット接続率が高いのがゲーム機だ。

「PS3」や「Wii」など、一般の「ゲーム機」の所有率は39.2%だが、インターネット接続の割合は27.4%にのぼり、約7割がインターネットに接続していることになる。また、「PSP」や「ニンテンドーDS」などの「ポータブルゲーム機」も、所有率が28.3%に対しインターネット接続率は19.4%で、こちらも約7割がインターネットに接続していることになった。家電製品よりもゲーム機のほうが、インターネットとの親和性が高いということが、この結果から読み取れる。

■総評（抜粋） 鎌田剛 カカコム メディアクリエイティブ部 部長

まとめてみると、家庭内におけるインターネット環境は今や「かなり良質なレベル」にあることがわかる。多くの消費者が、光ファイバーによる高速インターネットと、無線LANを使ったワイヤレスネットワーク環境を整備しており、パソコンはもちろん、テレビやレコーダー機器、ゲーム機など、ネットワークに接続できるさまざまな機器を所持している。しかも、それらの機器も、かなり高い割合でネットワークに接続されており、さまざまなサービスを楽しんでいるようだ。今後も、無線LANを中心としたネットワーク対応の家電製品がいろいろ登場してくると思われるが、家庭内におけるネットワーク環境はすでにかなり整備されており、消費者側がこうした機器を利用するうえでの障壁はすでにほとんどない状況になっていると言っていいたい。

※詳細結果、総評全文および過去のリサーチアーカイブは以下 URL をご参照ください

<http://kakaku.com/research/>

【価格.com データ】(2010年6月末現在)

月間利用者数 2,450 万人、月間ページビュー 7 億 4,394 万 PV、累計クチコミ件数約 1,100 万件
複数ショッピングモールの商材を横断検索できるサービスを含めた掲載商品数は約 7,500 万点